

## 生涯研修プログラム II) 専門委員会報告

## 1) 生殖・内分泌委員会

京都府立医科大学教授 本 庄 英 雄

I. 卵巣過剰刺激症候群(OHSS)の診断基準ならびに予防法・治療方針の設定に関する小委員会

体外受精登録施設に過去10年間における重症OHSSについてのアンケートを送付し、194施設から回答を得た。さらに、腹水・胸水穿刺例と腎不全、成人呼吸窮迫症候群、血栓症などを併発した重症OHSS症例につき詳細な調査を行った。67施設からの回答において、腹水・胸水穿刺例341例、重症OHSS例21例の報告があった。

II. 日本人更年期・老年期スコアの確立とHRT副作用調査小委員会

1. 日本人更年期・老年期スコアの確立

前委員会で作成した「更年期スコア」を全国の大学医学部に発送し、患者、および担当医にアン

ケート調査を実施した。この結果を踏まえ、再度21項目から成る「更年期症状評価表」を作成した。

2. HRT 副作用調査

Case-Control Study の形式でHRTと体癌および乳癌との関連性を解析した。体癌に関しては相対危険度0.917とHRTとの関連性は認められなかった。

III. 子宮内膜症取り扱い規約(第2部)—治療・診療編—の検討委員会

子ども家庭総合研究事業・リプロダクティブ・ヘルスと共同で約800例のデータを集積した。早期の子宮内膜症の治療指針、長期管理、治療の個別化、子宮腺筋症に対する治療指針、根治手術療法、治療の副作用と合併症、癌との関連性を解析した。

## 2) 婦人科腫瘍委員会

大阪医科大学教授 植 木 實

子宮頸・体癌、卵巣腫瘍の登録と成績処理をコンピューター化することにより患者年報・治療年報の日産婦誌掲載の遅れを取り戻し、一方では過去の患者年報・治療年報の情報公開化を推進することを今期の事業目標にした。

1. 登録事業：1) 平成10・11年の子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌の患者登録、平成7・8年の子宮頸癌、子宮体癌の予後調査を行った。2) 平成10年、11年の絨毛性疾患の地域登録を行った。

2. 小委員会事業：1) 新登録法実務小委員会：3腫瘍登録時および成績処理の為のコンピューターソフトの作成と新しい登録方法の推進を行った。2) 情報公開推進小委員会：登録成績を一般会員に公開するために日本産科婦人科学会のホーム

ページに掲載することにした。3) SERMが発生源となる婦人科腫瘍に関する調査小委員会：本年度の評議員会において、乳癌治療薬のTamoxiphenの子宮内膜への副作用を調査すべきとの提案があった。設置したSERM(選択的エストロゲン受容体調節薬)小委員会では薬理作用、腫瘍の病理学的特徴、体癌の発生頻度、今後の対応などについて報告書を作成した。

3. その他：1) 日本母性保護産婦人科医会からの要望により、来期から当委員会に乳癌検診対策の小委員会を設置することにした。2) 前期の卵巣腫瘍治療の基準化に関する検討小委員会からの報告書を日本産科婦人科学会誌の52巻8号に掲載した。